

「皆が一つになるように」
ヨハネによる福音書 17：13 - 26

ヨハネによる福音書は 17 章において、イエスさまが十字架の死を前にして、ご自分の弟子たちと後の世を生きる教会のために捧げられたとりなしの祈りが記されています。

イエスさまは弟子たちのためにこう祈られました。「わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。」(14-15)

キリストの弟子になるということは、神に敵対するこの世から切り離されるということではありません。そもそも、この世界はもともと神様によって作られたものです。人間が神様と向き合い、神様と交わり、神と共に歩む舞台として造られたものです。ですから「世」の本来の姿というのは、神様に背を向けている人々の姿ではなく、神様を信じるキリストの弟子たちの姿こそが、本当の意味での世界の姿なのだと言えるかもしれません。そして、その本当の世界の姿を願って、イエスさまは、やがて救いに導かれるはずのキリストの教会全体のために祈られるのです。

イエスさまは 21 節でこう祈られました。「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。」

イエスさまは、教会が一つでありますようにと祈ってくださっています。教会にはいろいろな人たちがいます。年齢も違えば、性格も違う、それぞれが育った環境も違います。そういう人たちが一つになるということは簡単なことではありません。しかし、そのような人たちが一つとされるのです。なぜなら、私たち一人ひとりがイエス・キリストの十字架の贖いによって、その罪を赦されたからです。イエス様がこんな罪深い者を愛し、そのためにご自分のいのちを捨ててくださった。そのことを知るからこそ、私たちの内に神の愛が生まれ、その愛で愛し合うことが出来るのです。イエスさまは、父なる神様と御子なるキリストが一つであるような愛の交わりが教会において実現しますようにと、祈りをささげられたのです。

なぜ、これほどにイエスさまは、教会の一致を望まれるのでしょうか。それは、教会における愛の一致を見ることによって、人々が神様の愛に触れて欲しいと願われたからです。教会の姿を見て「あの人たちは神様に愛されている人たちなんだ。だから、あんなに嬉しそうに愛の交わりをしているんだ。」それが分かる。教会はそうあって欲しいと、イエスさまは願っておられます。

もし私たちが、このイエスさまの祈りに応えることが出来るなら、それこそが、私たちが神の子とされ、神の栄光を表わす、ということではないでしょうか。世の人たちが不思議に思うほどに、教会が愛の交わりに生き活きとしているのなら、その交わりに魅せられて、教会に通う人たちが必ず起こされると信じています。そのようにして私たちは、神様の栄光を輝かせることができるのです。

だからこそ、イエスさまは「すべての人を一つにしてください」と祈ってくださっているのです。どうか私たちが、このキリストの祈りに望みを抱きつつ、共に歩んでいく者でありたいと願います。